

道南の植物の特徴と海岸植物

北斗市 長谷 昭

はじめに

黒松内低地以南の道南（大部分が渡島半島）の森林植生は、教科書的には、北海道の他地域と異なり冷温帯落葉広葉樹林（夏緑樹林）として特徴付けられ、ブナをはじめとして東北地方の自然林に広く分布している木本類とそれに関連する草本類が分布しているとされる（たとえば、安田ほか 2012）。

一方、渡島半島は細長く、また南部で松前半島と亀田半島に分岐しているため、面積に比べて海岸線が非常に長い。さらに、その海岸線は太平洋側では寒流、日本海側では暖流、津軽海峡側では東口側は寒流、西口側は暖流の影響があり、海岸植生も微妙な影響を受けている。このような道南の海岸には、北海道の他地域とは異なる植物が生育しており、道南を特徴付けるものとも言えるが、教科書的にはどうしても森林植生の方に目が行ってしまい、海岸植生については扱いが小さくなることが多い。

そこで、本稿では、今号の小特集「道南の植物」にちなんで、道南の居住者の立場から、あまり教科書的ではないことをも含めて、この地の維管束植物の特徴を紹介したい。

道南の植物の全体的特徴

(1) 道南は「北限の植物」の宝庫

表 1 は、道内の維管束植物を対象として

いる図鑑類や一部の全国の植物を対象とした図鑑類を参照して、道内では黒松内低地以南に生育しているか、あるいは、分布の中心が道南であるとされる植物をまとめたものである。被子植物の草本種は、地域固有種を含めて 123 種になるが、表が大きく見づらくなるので、環境省レッドリスト 2020（URL; <http://www.env.go.jp/press/107905.html>; 2022 年 1 月 13 日確認）及び北海道レッドデータブック（北海道 2001）にリストアップされている稀少とされる 33 種（それぞれ「準絶滅危惧」以上、「希少種」以上のランク）のみを記載した。

記載漏れや、図鑑類間での分布上の不一致も多いと思われるが、道南中心に分布している維管束植物は、筆者が文献で確認しただけでも裸子植物を含む木本類が 46 種、シダ植物を含む草本類が 133 種にものぼり、面積的に道南よりは広い道東あるいは道北に主に分布すると記載されている植物を大きく上回る。また、絶滅が危惧される稀少とされる種が、シダ類（イワヒバ、イワガネソウ、ヒメノキシノブ、ビロードシダ）と木本類（ヒノキアスナロ、マツブサ、アオツヅラフジ、マルバマンサク、キブシ、ヤブコウジ、キツタ）を含めて 44 種含まれている。

しかし、環境省のレッドリスト記載種以外の多くは、本州では比較的普通に生育している植物であり、別の見方をするならば、